The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	”konichiwa and arigatogozaimas for your testimony”：米公聴会における日本語使用と他者化
Author(s)	古川, 敏明
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2018, 2017, p. 1-11
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/69930
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

“konichiwa and arigatogozaimas for your testimony”：
米公聴会における日本語使用と他者化

古川　敏明

1.　はじめに

世界で 800 万台、アメリカ国内で 600 万台がリコール対象となったトヨタ車のアクセルペダル問題について、2010 年 2 月にアメリカ議会の公聴会が開催された。公聴会の使用言語は英語であり、議員たちは英語で質問し、証言者であるトヨタ側経営陣の２名は英語で応答する者と、通訳を介して日本語で応答する者がいた。トヨタが日本企業であり、公聴会に出席した豊田章男社長の母語が日本語であることを考慮すれば、日本語使用は自然な言語選択に思える。一方で、質問者として出席した議員の中には断片的に日本語を用いる者がいた。公聴会という公的な場面で、基本的に英語が使用言語となっている状況において、いわば言語と文化の境界を踏み越える言語実践は、どのような会話の連鎖上の位置で行われ、公聴会の参加者たちはその実践をどのような行為として扱っているのだろうか。本稿は公聴会という制度的場面で、アメリカの議員による越境的な日本語使用によって生じる相互行為上の効果について論じることを目的とする。

2.　理論的枠組み

言語や文化には帰属の問題がある。例えば、ある言語はある特定の集団と結びついており、他の集団はその言語の使用者と一般的には考えられていない。こうした言語と集団の境界を踏み越える言語実践をクロシングという（Rampton, 1995）。Rampton（1995）は、多民族社会としてのイギリスの 10 代の若者たちが、欧米系、南アジア系、カリブ系といった民族的境界を踏み越えて、一般的に自分が帰属する社会の言語とはみなされていない言語を用いるコミュニケーションを通し、集団間の分断ではなく、むしろ結束を促進していることを明らかにした。

一方、こうした言語実践について、北米でヨーロッパ系アメリカ人が用いるスペイン語を、モック・スパニッシュ（Mock Spanish）、ヒスパニック系に対する非明示的だが侮蔑的な行為として捉える批判的な分析がある（Hill, 2001）。クロッシングが集団間を結束させる効果を持つとすれば、モック・スパニッシュは逆に集団間を分断する効果を持つということになる。しかし、モック・スパニッシュと類似するモック・エイジアン（Mock Asian）について論じた Chun（2004）は、コリア系アメリカ人コメディアンのパフォーマンスについて分析し、このコメディアンはコリア系という集団に属すとみなすことができるからこそ、ある種の正当性を持って、親世代が話す第２言語としての英語発音を真似て笑いを取ることができるのだと主張している。

言語の切り替えを含む多言語なコミュニケーション研究にはさまざまなアプローチが存在するが、Auer（1998）はいち早く会話分析的手法を用いて連鎖構造を分析することを提唱し、言語の切り替えにおける相互行為上の規則性を明らかにした。越境的な言語実践について、会話の参加者たちの志向性に着目し、内的視点からやりとりを分析するこの手法は、会話の中で可視化され、観察可能なものを根拠とすることが重視されている。会話の連鎖組織を、会話の中で行われるカテゴリー化（Sacks, 1979）とともに分析していくことで、会話の参加者たちの意味生成についてさらに説得的に論じることができる。

本稿でデータとして用いる米公聴会の映像は、制度的な場面におけるやりとりの一種とみなすことができる（Bogen & Lynch, 1989 ; Clayman & Heritage, 2002; Drew & Heritage, 1992; Lynch & Bogen, 2005）。公聴会では、議員が質問し、証言者が答えるというように、特に話者交替において制度的なトークの制約が現れていることが指摘されている（岡田, 2016）。こうした制度的場面における米議員の日本語使用は、第２言語や付加的な言語としての日本語（Greer *et al.*, 2017）というよりは、より限定的な言語資源の使用とみなすことができるだろう。次節ではデータと分析のポイントについて述べる。

3. 方法

本稿のデータはアメリカの政治専門チャンネル C-SPAN で放送された 2010 年２月 24 日の公聴会である。C-SPAN のウェブサイトで販売されている番組映像（３時間 20 分）を分析データとして入手し、研究協力者の支援を得て番組全体を文字起こしした。その後、映像と文字起こしを利用して、議員が日本語を使用している相互行為場面について、会話分析のやり方に沿って詳細な文字起こしをし、さらなる分析を行った。

公聴会の参加者は、トヨタ側参加者として豊田社長と稲葉北米社長の２名に加え、豊田氏の通訳人１名が証言者席に横一列に座っていた。一方、証言者と向かい合う形で 24 名の議員が座り、トヨタ側の参加者に対して順番に質問を行った。各議員の持ち時間は５-10 分程度だった。（途中で１度交代があるが基本的に）議員のうち１名が議長として公聴会の進行を担当した。他に傍聴人席の人々や報道関係者、そして番組視聴者も公聴会の参加者とみなすことができる。

公聴会における使用言語は英語である。例外的に豊田社長が日本語で発話し、通訳人が英語に翻訳したり、議員による質問を通訳人が日本語に翻訳するということが行われていた。よって、豊田氏以外の参加者が日本語を用いる場面はごく限定的である。今回の映像内で議員が日本語を使用している場面は全部で５箇所あり、合計４人の議員によって発話されていた。これらの日本語使用場面について、以下の問いに答えることを目指す。

1. 米議員はどのような連鎖上の位置で日本語を使用するか
2. 米議員は自分の日本語使用をどのように扱うか
3. トヨタ側参加者は米議員による日本語使用にどのように応答するか
4. 米議員は日本語使用によって何を成し遂げているか

英語が基本的な使用言語である公聴会でアメリカの議員たちはどのような理由で日本語を使用したのだろうか。次節では日本語が使用される相互行為の連鎖上の位置を明らかにし、参加者が日本語使用にどのように志向しているか、最終的にどのような効果が生じているかを分析する。

4. 分析と考察

まず最初の抜粋は Townes が議長を務めており、議員のひとりである Cuellar が質問をする場面である。１行目では証言者の豊田社長が画面に映っているが、２行目で議長の Townes が質問を終えた議員に対して礼を述べると（“thank you very much”）、続いてテキサス州選出の議員である Cuellar を質問者として指名している。なお、抜粋の左隅にある矢印は各抜粋で着目すべき発話箇

所を示している。ここで着目したいのは、「米議員はどのような連鎖上の位置で日本語を使用するか」という１つ目の問いである。

抜粋１

```
   001                ((Toyoda on screen))
   002  Townes        thank you very much and (0.2) now (yield) (0.4) five
   003                minutes to the gentleman ((Toyoda shifts his gaze from
   004                Townes to Cuellar)) from Texas: Congressman (0.3)
   005                Cuellar.
   006                (1.0)
   007  Cuellar       thank you Mr. Chairman, (0.6) ((Toyoda puts an ear
→  008                phone on his left ear)) konichiwa. (0.4)
   009                [((sniffs))
   010  Toyoda        [((nods))
   011  Cuellar       (today) .h (0.5) ((Toyoda looks down and takes notes))
   012                I uhm (1.9) ((Toyoda looks up, and camera to Cuellar))
   013                represent ((lifts his left hand)) the San Antonio area
   014                ((moves his hand from left to right)) down to ((puts
   015                his hand on his chin)) the valley where we have a
   016                ((flashes his eye brows and nods)) Toyota plant, .h
   017                ((looks down))
```

議長の Townes が Cuellar を指名した後、７行目で Cuellar がフロアを取得し発話を開始する。Cuellar はまず議長に礼を述べ、少し長めの間を置いてから、８行目で “konichiwa.”と日本語で発話している。９-10 行目で Cuellar が鼻をするのと同時に、画面に映る豊田がうなずく。11 行目以降も Cuellar がフロアを保持して話し続ける。画面は豊田から Cuellar へと切り替わり（12 行目）、自分の選挙区を特定し、そこにトヨタの工場があると述べている。

Cuellar が日本語を用いたのは自分がフロアを取得した直後だったが、日本語が用いられる連鎖上の位置を確認するため別の議員がフロアを取得した場面を見てみよう。次の抜粋では議長の Townes がカリフォルニア州選出の議員である Watson を質問者として指名している。

抜粋２

```
   001                ((Camera on interpreter, Toyoda, and Inaba))
   002  Townes        ((gavel pounding)) (3.1) .h now call on the uh
   003                gentlewoman from Ohio.
   004                (1.4)
   005  ?             °from- from- from California. °
   006                (0.3)
   007  Townes        I'm sorry <California>. xx Congresswoman
   008                Watson [from California.]
   009  Watson                [.h £thank       ] you£ so much. .h
   010  Townes        [yes.]
→  011  Watson        [u:h ] may I say to you konichiwa: and ((camera to
→  012                Watson)) ((looking towards Toyoda))
→  013                arigatogozaimas .h for your testimony, .h ((looks
   014                down)) a:nd u:h (0.3) ((looks up towards Toyoda)) mine
   015                is more a comment ((shifts gaze from left to right,
   016                from Toyoda to Townes)) and Mr. Chairman I'm going
   017                to concede .h my time .h ((looks down, raises her right
   018                hand, puts it down)) uh ((looks at Townes)) because
```

```
019                 (0.2) we (.) ((points her index finger down)) do: have
020                 another panel, and there's another ((looks down))
021                 committee waiting for this room, .h
```

トヨタ側参加者たちが画面に映し出される中（１行目）、議長の Townes が木槌を叩き、長い間が生じ、前質問者のターンが終了する。続いて、２行目で Townes が次の質問者を指名し始めるが、別の参加者から選出州に関する訂正が入ったのを受け（５行目）、誤りに対する謝罪を述べるとともに訂正をして改めて Watson を指名している（７-８行目）。質問者として指名された Watson は９行目でフロアを取得し、議長に礼を述べた後、息を吸う。そして、11 行目で言い澱み（“u:h”）、後続する発言に対する許可をトヨタ側参加者（特に豊田）から求めた上で（“may I say to you”）、“konichiwa: and arigatogozaimas .h for your testimony,”（11、13 行目）と発話している。この時点でカメラは Watson を映し出しているため、トヨタ側参加者の応答を視覚的に確認することはできないが、トヨタ側参加者からの発話も確認できない。Watson は日本語を含む発話の後、再び息を吸い（13 行目）、言い澱みと短い間（14 行目 “a:nd u:h (0.3)”）の後、14 行目以降もフロアを保持しつつ、自分の発言は（トヨタ側参加者への質問というより）コメントになること（14-15 行目）、視線を議長に移して（15-16 行目）、持ち時間を一部放棄すること（16-17 行目）、その理由を述べている（18-21 行目）。

ここまで Cuellar と Watson の２議員が自らの持ち時間の冒頭部分で日本語を含む発話を行う場面を見てきたが、他の議員たちも同じ連鎖上の位置で日本語を含む発話をするわけではない。以下の抜粋は（Townes が退出したため臨時に）議長を務めている Norton が次の質問者として Connolly を指名する場面である。証言者の母語が日本語であるとしても、公聴会の使用言語はあくまで英語であることがわかる。

抜粋３

```
001                 ((US congresspersons on screen))
002  Norton         Mr. Connolly you have five ↑minutes
003                 (0.2)
004  Connolly       thank you madam chairman, .h um (1.0) Mr. Toyoda,
005                 (0.6) welcome uh to the committee, (0.3) um (0.4)
006                 ↑when (0.4) did it first come to your attention, (0.5)
007                 that there was a problem with acceleration (.) of your
008                 vehicles.
009                 (1.4)
```

画面に複数の議員たちが映し出される中（１行目）、２行目で議長の Norton が（ヴァージニア州選出の）Connolly に持ち時間を告げ、次の質問者として指名する。指名された Connolly は４行目で議長に礼を述べ（“thank you madam chairman,”）、息や言い澱みの後（“.h um (1.0)”）、豊田に呼びかけて歓迎の言葉を述べる（４-５行目 “Mr. Toyoda, (0.6) welcome uh to the committee,”）。そして、間と言い澱みの後で（５行目 “(0.3) um (0.4)”）最初の質問を行なっている（６-８行目）。

Connolly がフロアを取得してから、議長に感謝し、最初の質問をするまでの間が日本語発話が行われ得る連鎖上の位置ではあるが、Connolly が日本語を発することはなく、代わりに豊田への呼びかけと歓迎を英語で行なっている。Connolly と同様、次の抜粋でも Chaffetz が指名直後のやりとりを英語のみで行なっていることがわかる。

抜粋４

```
001                 ((Norton on screen))
002  Norton         uh (.) ((camera to US congresspersons)) Mr. Chaffetz
003                 uh f- (.) from Utah you have five minutes,
004                 (0.4)
005  Chaffetz       thank you. uh (0.2) Mr. Toyoda Mr. Ineba ((Inaba))
006                 (.) uh (.) thank you (0.2) thank you for being here. .h
007                 uh very much appreciate it. .hh uh (0.3) Mr. Toyoda
008                 x do you believe you're being treated ((camera to
009                 Chaffetz)) the same as other manufacturers (.) in the
010                 United States of America?
```

カメラは議長の Norton を映し出しているが（１行目）、Norton が話し始めた（“uh” (.)）直後に映像が切り替わり複数の議員たちが映し出される（２行目）。Norton は２−３行目でユタ州選出の Chaffetz に持ち時間を伝え、次の質問者として指名する。指名された Chaffetz は５行目で話し始め、議長に礼を述べ（“thank you.”）、言い澱みの後（“uh (0.2)”）、トヨタ側参加者の豊田と稲葉に呼びかけてから公聴会に出席したことに対し礼を述べる（５-７行目 “Mr. Toyoda Mr. Ineba ((Inaba)) (.) uh (.) thank you (0.2) thank you for being here. .h uh very much appreciate it.”）。続いて、吸気と言い澱みの後（７行目 “.hh uh (0.3)”）、豊田を指名し、最初の質問を行なっている（７-10 行目）。

ここまで４つの抜粋を見てきたので、１つ目の問いである「米議員はどのような連鎖上の位置で日本語を使用するか」についてまとめよう。日本語を使用した Cuellar（抜粋１）と Watson（抜粋２）はどちらも議長から質問者として指名を受けてから、議長への感謝、間（あるいは言い澱み、吸気）の後の連鎖上の位置で日本語（Cuellar による“konichiwa.”）あるいは日本語を含む発話（Watson による“konichiwa: and arigatogozaimas .h for your testimony,”）が行われていた。日本語を含む発話は、挨拶（“konichiwa.”）や挨拶に加えて公聴会に出席し証言を行なっていることに対する感謝を示す発話行為（“konichiwa: and arigatogozaimas .h for your testimony,”）とみなすことができる。一方、英語のみを用いていた Connolly（抜粋３）と Chaffetz（抜粋４）の例でも、同じ連鎖上の位置において、公聴会への歓迎（Mr. Toyoda, (0.6) welcome uh to the committee,）や公聴会に出席していることに対する感謝（Mr. Toyoda Mr. Ineba ((Inaba)) (.) uh (.) thank you (0.2) thank you for being here. .h uh very much appreciate it.）が行われていた。つまり、議員がフロアを獲得してから始まる持ち時間の冒頭部においては、トヨタ側参加者に対する挨拶や感謝を表明するという目的で日本語を含む発話が行われているといえる。こうした挨拶や感謝という発話行為の前には間などが生じることで、後続する発話行為（つまり挨拶や感謝）が投射されている点が抜粋１-４に共通していた。さらに、（日本語を含む発話であれ、英語のみの発話であれ）挨拶や感謝の後の連鎖上の位置には、最初の質問が続いていた。

続いて、２つ目の問い「米議員は自分の日本語使用をどのように扱うか」について考察したい。議長の Townes に Watson が質問者として指名される既出の抜粋２の一部を抜粋５として再掲する。

抜粋５

```
   009  Watson              [.h £thank       ] you£ so much. .h
   010  Townes        [yes.]
→  011  Watson        [u:h ] may I say to you konichiwa: and ((camera to
→  012               Watson)) ((looking towards Toyoda))
```

```
→  013                arigatogozaimas .h for your testimony, .h ((looks
```

すでに確認したように、９行目で Watson がフロアを取得した後は、議長への感謝、吸気と言い澱み、そして日本語を含む発話、最初の質問という連鎖がある。ここで注目したいのは、吸気と言い澱みの後で Watson が行なっている許可を求める発話（“may I say to you”）である。この発話はトヨタ側参加者（“you”）を受け手とする発話であり、日本語を含む発話に先行している。ではなぜここで、日本語使用の許可をトヨタ側参加者に対して求めるのだろうか。Watson による発話はトヨタ側参加者を日本語に属す者（あるいは日本語に熟達した者）として扱うと同時に、Watson 自身を日本語に属さない者（あるいは日本語に熟達していない者）として扱っていることを示している。つまり、Watson の発話（“may I say to you”）は、後者が前者に対して（間違っている恐れのある）日本語を使用することによって摩擦や対立が生じる危険性を回避する行為である利害予防措置（Potter, 1996）として捉えることができる。Watson による利害予防措置には、自分の日本語使用が日本語の熟達者であるトヨタ側参加者による評価の対象となり得るものであるという認識が示されている。

同様に、別の議員の発話においても日本語の帰属に関する認識が観察できる抜粋を見てみたい。既出の抜粋４でのやりとりに後続する部分で、質問者の Chaffetz が稲葉に対して長い発話を行なっている箇所を以下に抜粋６として示す。

抜粋６

```
   027  Chaffetz     tch u:m ((camera to Chaffetz)) (0.2) i- if you can
   028               hand the document, please to them, uh (0.8) uh (0.2)
   029               u:m (.) there's a document (.) dated July sixth of
   030               two thousand and nine (0.8) tch if you could take a
   031               look at this please, (1.2) tch this is an (.) internal
   032               Toyota document dated July sixth two thousand nine,
→  033               (0.2) uh ((looks up and looks at Inaba)) (1.4) Mr.
→  034               Ina:ba ((looks down)) (.) uh it has your- your name
→  035               on it my ((head movement)) (0.2) apologies if I
→  036               pronounced it wrong, (0.6) on page ((looks up)) seven,
   037               which should be the second page, ((looks down)) (0.7)
   038               it says (0.2) under the first bullet point, (1.0)
   039               ''changing political environment massive government
   040               support for ((looks up)) Detroit automakers'' h (0.4)
   041               is that concerning? why was that brought up.
```

Chaffetz はここで話題にしているトヨタの内部文書（のコピー）をトヨタ側参加者に渡すよう依頼し（28 行目 “please to them,”）、自分の手元にある文書の日付に言及した後（29-30、32 行目）、質問の開始を投射し（33 行目 “(0.2) uh”）、顔を上げて長い間を置いてから、これから尋ねる質問の応答者として稲葉に呼びかけ、稲葉の名前が内部文書に記されているという事実を述べる（33-35 行目 “Mr. Ina:ba ((looks down)) (.) uh it has your- your name on it”）。そして、この連鎖上の位置で、利害予防措置（35-36 行目 “my ((head movement)) (0.2) apologies if I pronounced it wrong,”）を行なっている。

ここで Chaffetz が志向しているのは、呼びかけた相手の名前を間違えることによって生じる利害関係であり、Chaffetz の発話は上述の Watson の発話と同様、（名前を包摂する）日本語に属さ

ない者（Chaffetz）が日本語に属す者（稲葉）の名前を間違える危険（実際には Ina:ba という呼びかけに特に不自然さはないとしても）を回避する試みとして捉えられる。（相手の名前を間違えることは相手のフェイスを侵害する行為であるということもできる。しかし、そもそも名前が自分にとって馴染みのない言語文化の名前であるならば、その言語文化に属さない自分は何らかの悪意を持って名前の言い間違いをしているわけではない、という暗示があるといえるかもしれない。）36 行目以降、Chaffetz は間を置いてから、内部文書の内容へ戻り、質問を行なっている。

Watson や Chaffetz による利害予防措置が行われるのは、米議員による日本語を含む発話や日本語の名前の使用が、言語文化の帰属や所有権に関わる境界線を行き来する一種のクロシング（Rapmton, 1995）であるからこそだろう。また、抜粋１、２、５、６で見てきたように、米議員たちが日本語を使用するのは、（リコール問題の公聴会の目的を勘案すれば、質問の受け手がトヨタ側参加者であることはある意味当然だが）これから行われる質問の受け手をトヨタ側参加者であると強調する効果があると考えられる。さらに、日本語で挨拶や感謝を述べた Cuellar（抜粋１）と Watson（抜粋２）の場合は、日本語使用の後、自分の選挙区にはトヨタ関連工場があることを述べたり（Cuellar）、質問ではなくコメントに留め、持ち時間を一部放棄する（Watson）といった発言が続くことから、議員による日本語使用は、これから行われる発話がトヨタに対して敵対的なものでないと暗示する機能を担っていることを指摘できる。

次に、３つ目の問いである「トヨタ側参加者は米議員による日本語使用にどのように応答するか」について考えてみよう。既出の抜粋１の一部を抜粋７として再掲する。ここでは質問者として指名された Cuellar の発話に対する豊田の応答に着目したい。

抜粋７

```
   007  Cuellar      thank you Mr. Chairman, (0.6) ((Toyoda puts an ear
   008               phone on his left ear)) konichiwa. (0.4)
   009               [((sniffs))
→  010  Toyoda       [((nods))
   011  Cuellar      (today) .h (0.5) ((Toyoda looks down and takes notes))
   012               I uhm (1.9) ((Toyoda looks up, and camera to Cuellar))
   013               represent ((lifts his left hand)) the San Antonio area
```

８行目で Cuellar が日本語で行った発話に続き、豊田は 10 行目でうなずいている。豊田のうなずきは、先行する Cuellar の日本語での発話が隣接ペア（挨拶）の第一成分であるという豊田の理解を示しているといえる。豊田のうなずきは挨拶の第二成分であり、うなずきによって、挨拶の隣接ペアが成立していることがわかる。ちなみに、このやりとりではカメラはちょうど豊田を映しているが、Cuellar による日本語の挨拶に対して、豊田は前方の Cuellar の方に視線を向けつつ、特に表情を変えることもなくうなずいており、軽い会釈を行なっているように見える。11 行目以降で Cuellar が発話を再開した後も、豊田は視線を手元に落としメモを取るが、それ以外に特に目立った応答は確認できない。

同様に、すでに示した他の抜粋（抜粋２）でも、米議員による日本語使用に後続するトヨタ側参加者の応答として、発話は行われていない。英語でしか発話のない抜粋３と４においても、議員たちが歓迎や感謝を述べた後に、トヨタ側参加者からの発話による応答はされていないことを踏まえると、こうした連鎖上の位置は議員が占有しており、質問が行われるまで自分たちが発話を控えるのが適切であるというトヨタ側参加者たちの理解が示されているといえるだろう。よっ

て、英語を使用言語とする米公聴会において、たとえ日本語を含む発話が行われたとしても、証言者であるトヨタ側参加者たちはそれを英語と同様に無標な発話として扱っている。

ちなみに、日本語を含む発話に先行して利害予防措置を行なっていた Watson（抜粋２と５）を除くと、発話を行う米議員たち自身も日本語で発話を産出する際に（例えば笑ったりすることもなく）淡々と発話している。つまり、日本語を話すことのなさそうな米議員が日本語を用いたから驚きをもって応答するというようなやりとり（あるいはそういった相互行為の参加者たちの間主観的な理解）は観察できない。ただ、Watson による日本語を含む発話を豊田が日本語の挨拶として扱い、（英語の挨拶では行わない日本的な挨拶としての）会釈で応答しているだけである。

続いて、ここまでとは異なる連鎖上の位置における日本語使用場面を分析する。以下は既出の抜粋３に後続するやりとりを抜粋８として提示したものである。Connolly は冒頭のやりとりでは日本語を用いることなく、英語だけで通していたが、ここでは質問に対する豊田の応答の後で日本語を用いている（25 行目）。発話者の Interp はトヨタ側参加者の隣に座っている通訳人を表す。

抜粋８

```
   014  Interp       so (.) u:h responding specifically to your question
   015               of <whe:n> .h u:m (0.5) I would say uh some time towards
   016               the end of last year.
   017               (0.5)
   018  Connolly     tch towards the end of two thousand ((camera to
   019               Connolly)) ((flashes his eye brows and keeps looking
   020               towards Toyoda)) and nine.
   021               (0.2)
   022  Interp       nisenkyuu          nen no owari (.) to.
   023               (0.2)
   024  Toyoda       hai. (0.2) hai soo desu.=
→  025  Connolly     =hai. ((nods and closes his eyes))
   026               [((shifts gaze off Toyoda, turns straight, and opens
   027               his mouth))]
   028  Interp       [that is correct.]
   029  Connolly     okay, ((opens his eyes, looks up, and shifts gaze to
   030               Toyoda)) (0.4) u:hm (1.8) were you aware of the fact
   031               that there had been (0.5) complaints by consumers
   032               (0.5) long prior to that time.
```

14-16 行目ではこの抜粋に先行する日本語で行われた豊田の発話を通訳人が英語に翻訳している。少し長めの間の後（17 行目）、Connolly が（アクセルペダルの問題を最初に認識したのはいつかという）質問に対する豊田の応答の英語翻訳（15-16 行目 “some time towards the end of last year.”）を再定式化している（18-20 行目 “tch towards the end of two thousand and nine.”）。Connolly によるこの発話を今度は通訳人が豊田に向けて日本語に翻訳し（22 行目）、豊田が再定式化された西暦の確認を日本語で肯定すると（24 行目 “hai. (0.2) hai soo desu.=”）、連鎖上は次に通訳人による英語への翻訳が行われるはずであるが、実際にはそうなっていない。豊田の発話の後には Connolly による日本語の発話とうなずきが切れ目なく続いている（25 行目 “=hai.”）。Connolly の日本語発話は直前の豊田の発話の一部を繰り返しているというより、豊田による応答を受諾するものだと捉えることができる。Connolly は視線を移し、発話を続けようと口を開くのだが（26-27 行目）、それと同時に通訳人が豊田の発話を英語翻訳すると（28 行目）、Connolly は 29 行目に

なるまで発話を再開していない。そして 29 行目で Connolly は通訳された豊田の応答を再び受諾し（“okay,”）、目を開いて顔を上げ視線を移すと、関連する次の質問を行っている（29-32 行目）。

抜粋８から観察できることは、米議員による日本語使用は質問者としてフロアを取得した直後の挨拶や感謝に限定されず、質問した後のやりとりにも登場しているということである。また、この公聴会では豊田が通訳を介して証言している状況を勘案すると、Connolly の日本語発話は、通訳を介する特定の制度的場面の連鎖において割り込みをしたように見える。Connolly は日本語で豊田の応答を間髪入れず受諾し、（おそらく時間的制約の中で次の質問へ移行しようとしていたことからも）連鎖の中の適切な位置で発話を行い、日本語を自らの言語資源として利用しているといえるのではないだろうか。しかし、Connolly の発話の直後に豊田からの応答としての発話はなく、通訳人は Connolly がすでに豊田の応答内容に対する理解を示したことは無視して、Connolly 以外の議員や聴衆に向けて英語へ翻訳していた。

最後に４つ目の問い「米議員は日本語使用によって何を成し遂げているか」について考察しておきたい。３時間 20 分にわたる公聴会で質問を行なった 24 名の議員の内、本稿では Cuellar（抜粋１、７）、Watson（抜粋２、５）、Chaffetz（抜粋６）、Connolly（抜粋８）の４名が登場する場面を分析した。Chaffetz はトヨタ側参加者（稲葉）に呼びかける場面だったが、Chaffetz に限らず、このような呼びかけを行なったのはほぼ全ての議員である。だが、Chaffetz の発話に着目したのは、呼びかけの直後に自分が名前（稲葉）を間違って発音していれば謝罪するという利害予防措置（抜粋６、35-36 行目 “my ((head movement)) (0.2) apologies if I pronounced it wrong,”）を行なっていたからである。名前で呼びかける以外で利害予防措置（抜粋５、11 行目 “may I say to you”）を行なっていた Watson は、当該行為の後に日本語での挨拶と公聴会出席への感謝を述べていた。Chaffetz と Watson による利害予防措置が示しているのは、日本語使用が言語文化の帰属や所有権にまつわる境界を踏み越え、それゆえ摩擦や対立を生じさせ得る行為だという認識である。よって、少なくとも２名の議員にとって、日本語使用と利害予防措置は切り離せない発話行為として、互いに隣接する連鎖上の位置で用いられていた。こうすることで、異文化に対し、少なくとも何らかの配慮をする者として振舞っているということができるだろう。（しかし、こうした行為は局所的なものであり、それぞれの議員がどういった政治的信条を持ち、実際の政治活動を展開しているかとはまた別の話であることに注意したい。）

また、Cuellar（抜粋１、７）と Watson（抜粋２、５）の場合は、日本語使用が後続する発話内容がトヨタ側参加者にとって敵対的な内容とならないことを示唆してもいた。しかし、Chaffetz（抜粋６）は稲葉に呼びかけ、利害予防措置を行なった後も、トヨタ側に対して内部文書に関する厳しい質問をしていたし、フロア獲得直後ではない連鎖上の位置で日本語で豊田の応答を受諾した Connolly（抜粋８）についても、アクセルペダルの問題を経営陣が把握した時期を追求していたように、日本語使用が常にトヨタ側に対する友好的な態度を投射するわけでもなかった。Connolly による日本語使用は、一時的に自身の日本語理解能力を示し、通訳を介することなく質疑応答を進める行為であったのだが、結局はその時点まで通訳を介して進められてきた公聴会の流れを無視し続けることはなく、後続する連鎖の中では再び通訳を介する形で質疑応答が進んでいった。改めて４つ目の問いに戻ると、本稿で分析した米議員たちはそれぞれ局所的な意味生成を行なっており、日本語使用によって何か共通の効果を成し遂げていたと主張するのは難しいかもしれない。ただ、言語選択は成員カテゴリー化と結びついているので、日本語使用によって証言者であるトヨタ側参加者たちが日本語話者であることを明示するとともに、トヨタという企業

について、もはや発祥地は問題でないグローバル企業というより、日本と何らかのあるいは強いつながりを有する企業として扱っているといえるだろう。

5. おわりに

本稿では 2010 年 2 月に行われたリコール問題をめぐる米公聴会をデータとし、議員たちが日本語を使用する場面に着目して分析を行った。まず、日本語使用場面のコレクションを構築する中で、通訳を介して日本語で証言することを選択したトヨタの豊田社長を除くと、議員による日本語使用場面は極めて限られていることがわかった。証言者のトヨタ側参加者が日本語話者だとしても、米公聴会の使用言語はあくまでも英語なのである。その上で、議員による限定的な日本語使用場面について、それがどのような連鎖上の位置で行われており、議員は自らの日本語使用にどのように志向し、それに対してトヨタ側参加者はどのように応答したか分析していき、最後に日本語使用の帰結や効果について論じた。

特に帰結や効果の分析を通して明らかになったのは、議員の日本語使用について、言語文化の境界を踏み越える代表的な実践であるモック・スパニッシュ（Hill, 2001）をめぐる議論のように、それを即座に差別的な行為であると結論づけられるような根拠をデータの中で特定することは困難だということである。一方、議員たちが日本語使用を通して行っていたことは多機能であった。議員たちの日本語使用は、トヨタ側参加者たちを質問の受け手として前景化するとともに、彼らを日本語話者として成員カテゴリー化していた。そうした意味において、英語が無標な使用言語である公聴会で証言者に対して日本語を使用することは、トヨタ側参加者あるいはトヨタという企業を「他者化」しているといえる。と同時に、議員の日本語使用は、通訳を介して日本語で証言することを選択した豊田に対して「歩調を合わせる」側面があることも指摘しておきたい。

参考文献

Auer, P. (1998). Introduction: Bilingual conversation revisited. In P. Auer (Ed.), *Code-switching in conversation: Language, interaction and identity* (pp. 1–24). London: Routledge.

Bogen, D. & Lynch, M. (1989). Taking account of the hostile native: Plausible deniability and the production of conventional history in the Iran-Contra hearings. *Social Problems, 36* 197–224.

Chun, E. W. (2004). Ideologies of legitimate mockery: Margaret Cho's revoicing of mock Asian. *Pragmatics, 14*, 263–289.

Clayman, S. & Heritage, J. (2002). *The news interview: Journalists and public figures on the air*. Cambridge: Cambridge University Press.

Drew, P. & Heritage, J. (Eds.). (1992). *Talk at work: Interaction in institutional settings*. Cambridge: Cambridge University Press.

Greer, T., Ishida, M. & Tateyama, Y. (Eds.). (2017). *Interactional Competence in Japanese as an Additional Language*. Pragmatics & Interaction, Volume 4. Honolulu: National Foreign Language Resource Center.

Hill, J. H. (2001). Language, race, and white space. In A. Duranti (Ed.), *Linguistic anthropology: A reader* (pp. 450–464). Oxford: Blackwell Publishing.

Lynch, M. & Bogen, D. (2005). 'My memory has been shredded': A non-cognitivist investigation of 'mental' phenomena. In H. te Molder and J. Potter (Eds.), *Conversation and cognition* (pp. 226–240). Cambridge: Cambridge University Press.

岡田悠佑. (2016). 「"Not supporting this recall wholeheartedly": タカタエアバッグ問題に関する米議会公聴会の会話分析」『言語文化共同研究プロジェクト 2015』, 25–32.

Potter, J. (1996). *Representing reality: Discourse, rhetoric and social construction*. London: SAGE Publications.

Rampton, B. (1995). *Crossing: Language and ethnicity among adolescents*. London: Longman.

Sacks, H. (1979). Hotrodder: A Revolutionary Category. In G. Psathas (Ed.), *Everyday Language: Studies in Ethnomethodology* (pp. 7–14). Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.

謝辞

本稿は 2017 年 5 月に大妻女子大学で行われた第 1 回 CAN-Asia Conference での口頭発表を元に執筆したものである。

文字化記号一覧

(n.n)	( )内の秒数分だけ音声のない状態
(.)	0.2 秒未満の音声のない状態
=	途切れなく密着した発話
[	発話の重なりの開始
]	発話の重なりの終了
(word)	不明瞭な発話
(( ))	参加者のジェスチャーなどの記述
-	言葉が不完全で途切れた状態
:	直前の音の引き伸ばし
?	直前の発話の終了部分の音調の上昇
.	直前の発話の終了部分の音調の下降
,	直前の発話の終了部分の音調の半上昇
↑	直後の発話部分の顕著な音調の上昇
.h	吸気音
<u>under</u>	発話の強調
< >	周辺よりも遅い発話
£word£	笑い声で産出されている発話
°word°	ささやき声で産出されている発話
x	1 拍分の不明瞭な発話
" "	引用